

かほく市立高松中学校 学校便り

《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

さわやか



令和7年5月1日発行

校長 塚田 秀和

□ 5月3日は創立記念日、「その一步が、やがて道になる」

全校集会での話です。

今年度から「5月3日」を「創立記念日」としました。本校の歴史を紐解くと、1947年（昭和22年）の「学制改革」により、4月1日に高松町立高松中学校が創設されました。当時は高松小学校に併設され、通学区域は高松、内高松、長柄町であったそうです。さらに5月3日に開校式が行われたという記録があったことから5月3日を創立記念日としました。



創立当時の高松中学校全景

学制改革により創立とありますが、学制とは「学校制度」のことで、学校の仕組みを表します。1872年（明治5年）に「学制」が發布され、初めて「学校制度」が国民に知らされました。明治時代になり「日本を豊かで強い国にしよう」という目的のもとで学制が發布されました。具体的には、すべての子供が学校に通うことができるようになり、江戸時代の寺小屋や藩校に代わって、全国に学校ができたということです。今からおよそ150年前の話です。だから、一昨年は高松小学校で、昨年は大海小学校で創立150周年の記念式典があったということです。

高松中学校が創られたのは、1947年（昭和22年）戦後の学制改革によるものです。この改革により、現在の6・3・3・4制になったり、小学校、中学校合わせて9年間が義務教育になったり、男女共学になったりと今の学校の形になったのです。ちなみに「明治時代の三大改革」として学制、徴兵令、地租改正の3つが挙げられます。これら改革の目的も「日本を豊かで強い国にしよう」ということです。社会の授業で習った「富国強兵」です。学習で得られた知識は、身の回りのこととつながります。「なぜ」と思ったことを自分で進めていくと新しい発見や、身の回りの出来事や、これまでに学習したこととつながって楽しくなります。もっと、自分で学習を進めたいくなります。本校が「高中スタイル」として、めざしている授業です。

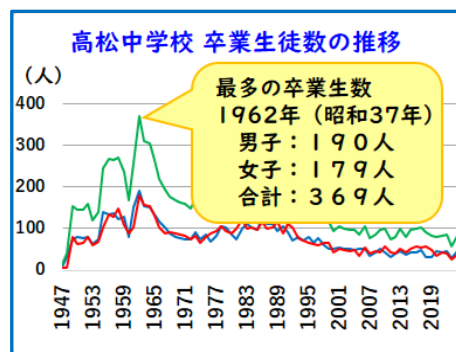
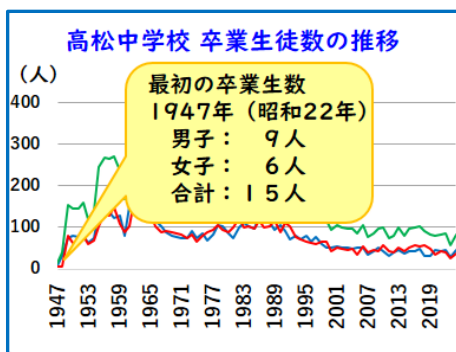
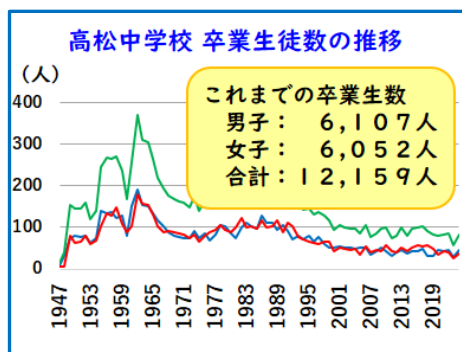
創立記念日の集会ということで昭和22年から今年3月まで毎年の卒業生徒数を調べてみました。学校には「卒業証書授与原簿」という卒業証書に記された氏名と番号が記録されているものがあります。その記録を元に、1947年（昭和22年）までの卒業生徒数を調べ、グラフにしました。これまでの卒業生は、男子6,107人、女子6,052人の、12,159人です。また、創立初年度の昭和22年度の卒業生は男子9人、女子6人の合計15人でした。制度が変わったばかりで対応できなかったのではないかと考えられます。卒業生が一番多かったのは、1962年



卒業証書原簿とその中身

（昭和37年）の男子190人、女子179人、合計369人でした。ちなみに今年度の全校生徒は259人ですから、1962年の3年生は今の全校生徒より110人も多いことになります。また、全校生徒が一番多かったのも1962年です。この時は1年生304人（5クラス）、2年生310人（6クラス）、3年生369人（7クラス）、合計983人（18クラス）でした。どの学年も今年の全校生徒数を超えています。983人は今年の全校生徒の3.8倍にあたります。現在の4倍弱の生徒が、同じ建物の中で過ごしていたことは驚きです。

— : 男子、 — : 女子、 — : 合計



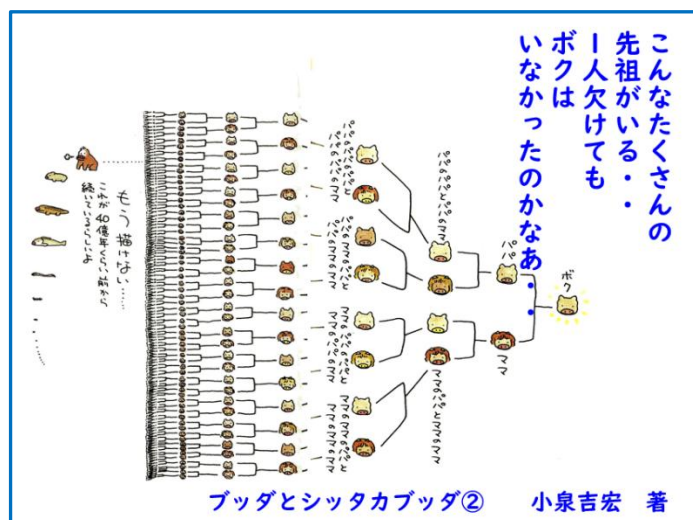
左下の写真は1978年(昭和53年:開校31年目)に撮影されたものですが、記録をみると建物は18クラスのときの校舎とほぼ同じです。テニスコートも、体育館もまだありません。

卒業生徒数について調べていくうちに、昨年12月の集会で紹介した先生の好きな漫画「ブッタとシッタカブッタ」の1コマが頭に浮かびました。(右下)「ボクはパパとママから生まれて、パパはパパのパパとママのママ、ママはママのパパとママのママから生まれている。一人でも欠けたらボクは存在しない」という1コマです。この高松中学校の歴史にも同じことが当てはまるのではないのでしょうか。現在、この高松中学校に通っている皆さんも大切な一人で、これまで79年に渡って、卒業した12,159人も大切な一人一人、その皆さんの活動が積み重なって、今の高松中学校があるのだと感じました。

そこで、5月のテーマは、「その一歩が、やがて道になる」としました。ぜひ、皆さんも学校のことを知り、一人一人の一歩は小さいけれど、およそ80年続く高松中学校、12,000人を超える生徒の小さな一歩が集まると、道になって、これからも続いていくのだなあと感じてほしいです。



1978年に撮影された高松中(航空写真)
写真下が国道側(グラウンドの位置は現在と同じ)



□ 「校訓」「校章」について

《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

本校は、今年度創立79目を迎えます。校訓とは、創立以来80年近くになつて卒業生や先生たちが大切にしてきた言葉です。学年が上がるにつれて、責任を負うことが多くなりますが、「人への思いやりを大切にし、自分の役割を自覚して、心を合わせて目標に向かって進んでいく」ことを意味しています。

《校章》の由来

初めて記録に登場した「高松」は道興(どうこう)が記した「廻国雑記(かいこくざっき)」という旅日記です。道興は、1486年の6月に北陸から関東、奥州松島まで巡った旅の道中で、目に映った物や、その時の想いを「廻国雑記」にまとめました。その中に、高松について記されている文章があります。



おなし国高松といへる所に行き暮れて
煙のたつをなかめやりて、
すむ人の たのむ木陰や それならむ
煙(けぶり)に暮るる 高松の里



当時の高松は人家もまばらな寒村だったようですが、「廻国雑記」の中にある、古くから住民に親しまれた「松」にちなんで、松の緑、松葉を図案化したものです。松の木は、粘りがあって強度や耐久性に優れているのが特徴です。そこで、どんな苦境にも耐え抜く人間像の象徴との願いを込めて制作されました。

創立記念日にあたり、「校訓」「校章」に込められた先輩方や地域の方々の想いを感じてほしいと思います。

(参考文献 高松町史 自然・歴史・文化 たかまつの礎 2004.2 高松町)

□学習集会より「高中スタイル」の授業

4月11日(金)に学習集会を行い、今年度より進める新しい授業の形「高中スタイル」について生徒、教職員で確認しました。「高中スタイル」とは「生徒が自分自身で学び方を考えて、学習を進める形」の授業です。「予測不可能な時代」「正解のない時代」だからこそ「自分で考え、行動すること」が大切になるからです。

「高中スタイル」の授業を通して

- ① 自ら進んで学んでいく力
- ② 自分の考えを社会に発信する力

の、2つを身につけることをめざしています。



□5月の主な行事予定

2日(金)	前期生徒総会、口座振替集金日
3日(土)	吹奏楽部 定期演奏会 15:00～ 於 本校体育館
7日(水)	1年生読み聞かせ ※ 1, 2年生は、毎月1回、朝読書の時間に「読み聞かせ」が行われます
8日(木)	国語小テスト、2年生内科検診(午後)、尿検査(一次)
12日(月)	火曜日課、3年生部活動なし
13日(火)	3年生 修学旅行(関西方面、～15日) 2年生 特別時間割、食育講座、教育相談、1年生 海岸清掃
14日(水)	1年生 校外学習(能登青少年交流の家)、2年生 班別金沢自主プラン
15日(木)	1・2年生 特別時間割、教育相談、1年生海岸清掃予備日
16日(金)	3年生 特別時間割
19日(月)	部活動発会式、1学期中間テスト範囲発表
20日(火)	全学年 i-check(6限)、1年生 内科検診、教育相談(午後)
21日(水)	2年生読み聞かせ
22日(木)	郡市陸上競技大会壮行式、部活動停止期間(～29日)、2年生 教育相談(午後)
23日(金)	3年生 教育相談
28日(水)	今月の振り返り(朝)
29日(木)	1学期中間テスト、生徒会専門プロ委
30日(金)	生徒議会、3年生 JICA 講演会
31日(土)	河北郡市陸上競技大会 於 うのけ総合運動公園陸上競技場

※ 給食なし
1・3年生 13～15日
2年生 14日

□「感謝」授業参観、学年懇談会

4月25日(金)に授業参観が行われました。参観後に全学年で、ここまでの学年のようすや5月に行われる校外学習のこと、3年生については進路学習等についてお知らせする学年懇談会を実施しました。今後学校活動についてお知らせする機会を設けていきます。

保護者の皆様には、平日の開催にも関わらず、多くの方に参加していただきました。感謝申し上げます。